

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	○基礎的・基本的な学力の定着を土台とし、ICTの効果的な活用や言語活動の充実を通して、主体的、対話的で深い学びを実現する。	中 間 評 価		最 終 評 価	
環境づくり		○ICT・板書・掲示物の特性を生かし、児童の学習意欲を高める環境を整える。また、学習規律を全校で共有し、様々な背景をもつ児童も学びやすい学習環境を整える。				

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課 題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課 題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<small>学</small> 漢字やカタカナを正しく書いたり読んだりすることが概ねできている。 <small>学</small> 自分の思いや考えを表現することが苦手な児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字やカタカナ等、テストの時は学習に意欲的だが、家庭学習の習慣が身に付いていない。 話したいことを自分の言葉で伝えられず、教師が聞くまで待っていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に漢字学習を行ったり漢字を宿題に課したりすることで、家庭学習の習慣を付ける。 5W1Hを意識して話したり聞いたりできるよう、日常的にスピーチを行い、質問タイムを設ける。 		
	算数	<small>学</small> 繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算を正しく解く力が身に付いている。 <small>学</small> 文章問題を読んで正しく立式することのできる児童は多い。しかし、言葉の意味を正しく理解できずに間違える児童がいるので、国語とも関連させて指導する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 足し算や引き算について、正しく解くことができるが、次の単元に入ると忘れてしまうことがあるので、定着させていく必要がある。 文章問題を正しく読める児童は半数いるが、早とちりしてしまうことや問題の読み間違いがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の学習の始めに、計算問題に取り組む時間を設けることで、理解を確実にする。 文章問題を読むときに、分かっていることと求めることを区別できるよう、下線を引く指導をすることで、正しく立式できるようにする。 		
3	国語	<small>調</small> 「書くこと」について、区及び全国の平均正答率を下回っている。また、作文に苦手意識をもつ児童が多い。 <small>調</small> 「説明文を読み取る」や「物語文を読み取る」において、区の平均正答率を下回っている。 <small>学</small> 5W1Hを意識して質問したり答えたりできる児童が多いが、接続詞を用いて話したり、話の要点を聞き取ったりできる児童は少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 自由に文を書くことは好きだが、テーマが決まっていると正しく書けているか不安になってしまう児童が多い。また、「はじめ」「中」「おわり」の構成を意識して書くことが苦手な児童が多い。 一文の中で、「だれが、どうした」等は捉えられるが、文章のあらすじを捉えることができていない児童が見られる。 つながりに気を付けながら話したり、大事なところを落とさずに聞いたりすることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末に日記を書く宿題を継続的に行う。また、なぞり書きや視写に取り組みさせることで、書くことに慣れるようにする。 連絡帳を書くことを通して、聴写することに取り組みせ、考えながら文章を書くことができるようにする。 叙述を基に場面の様子を思い浮かべる活動を設定し、想像したことを伝え合わせるようにする。 大事なことを落とさないように聞くために、よい話し方やよい聞き方についての話型や聴型を示し、指導する。 		
	算数	<small>調</small> 「長さ・かさ」について、区及び全国の平均正答率を下回っている。 <small>学</small> 計算問題を早く解けるようになってきた児童が多いが、個人差も大きい。 <small>学</small> 時計を見て時刻が分かるようになってきたが、かかった時間を求める問題に苦手意識をもっている児童が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 「長さ・かさ」の学習において、量感を捉えられていない児童や、2つ以上の単位が混在すると、目盛りを読み取れない児童が多い。 足し算の筆算を正しく解くことが苦手な児童がいる。 「時ごとと時間」の学習において、かかった時間を求める問題に苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項が身に付いていないため、毎日の宿題で復習に取り組む。 問題を正しく読み取れるよう、問題文に下線を引いたり囲んだりすることで、問題解決への見通しをもたせる。 アナログ時計と数直線を利用し、かかった時間を視覚化することで、かかった時間を求めやすくする。 		

4	国語	<p>調 関心・意欲が高い児童が多いが、「書くこと」について全国の平均正答率に到達していない。また、作文に苦手意識をもつ児童が多い。</p> <p>学 「読むこと」について、正しく文を読むことや、文章から場面の様子を読み取ることに意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>学 ICT機器を使って資料を提示したり、発表する機会を設けたりしたことで、聞き手に分かりやすく伝えようとする意識が育ってきている。</p>	<p>・はじめ・中・終わりの構成を考えながら書くことや、読み手に伝わりやすくするために順番に気を付けて書くことに課題が見られる。事実や出来事を書くことはできるが、根拠を書くことに課題が見られる。</p> <p>・語のまとまりを意識しながら読むことに課題のある児童がいる。</p> <p>・漢字がもつ意味を忘れてしまうため、既習の字を同じ読み方の他の漢字と間違える児童が多い。</p>	<p>・文章を書くことへの苦手意識を減らすために、年間を通じて、行事を通じて作文を書く時間を設ける。また、月に一度は、物語や日記を書く宿題を設ける。</p> <p>・「書く」の単元では、構成メモを用いて、順序を意識して書くことを繰り返し指導する。</p> <p>・日頃から根拠をもって話す指導を行い、理由を書くことに慣れるようにする。</p> <p>・文章を読む際に、場面分けを全体で行う。また、登場人物の確認や情景を全体で確認することで、話のまとまりが変化したことに全員が気付けるようにする。</p> <p>・漢字の宿題を毎日行う。また、新出漢字を学ぶ際に、自分で文章を作る指導を行い、漢字のもつ意味に慣れるようにする。</p>		
	算数	<p>調 各領域において、目標値を超えているが、「10000より大きい数」は、目標値に達していない。</p> <p>調 定期的に計算、作図や1万を超える数などの復習を取り入れなければ、既習事項を忘れてしまう児童が多い。</p> <p>学 具体物の操作を授業に取り入れることで、量感が身に付いてきている。</p> <p>学 計算に苦手意識をもっている児童も、意欲的に取り組む習慣が身に付いている。</p>	<p>・1万を超える数の概念をとらえきれていない児童が多い。</p> <p>・数直線において、1目盛りの数を計算することが困難で、問題を解くことができない児童が見られる。</p> <p>・単位の量感が曖昧である。また、長さ、かさ、重さ等の単位を混同している児童が見られる。</p>	<p>・大きな数の概念を定着させるために、単位の書き込みや4ケタの区切り線を入れて考えるよう繰り返し指導する。</p> <p>・数直線の学習では、1目盛りの読み取りからスタートするように共通理解をし、指導していく。</p> <p>・年間を通じて具体物やICTを活用し、長さやかさについて量感の定着を図る。</p> <p>・以上の学習を進めるために、年間を通じて苦手な単元を取り入れた課題を家庭での学習に取り入れる。</p>		
5	国語	<p>調 「話すこと・聞くこと」の領域と言葉の学習において、区の目標値を下回っている。</p> <p>学 相手の立場を考えて話すことや朝のスピーチなどを続けたことで、聞き手に分かりやすく伝える力が育っている。聞く必然性を設け、聞く態度が育ってきたが、内容や大切なことまでを全員が意識しては開けていない。</p> <p>調 説明文の構成を理解できるように「始め」「中」「終わり」を意識した指導を続けたことで、説明文への苦手意識はなくなり目標値を上回ったが、区の平均値を下回っている。</p>	<p>・こ・そ・あ・ど言葉の表すものを理解することや、接続詞の使い方に課題が見られる。</p> <p>・話を聞くだけでなく、大切なことが何かを意識して聞くことや、話の内容を短くメモすることに課題が見られる。</p> <p>・説明文の中の文章が多くなると、読むことに抵抗を示す児童が見られる。</p>	<p>・100文字～200文字程度の短い文章を繰り返し書かせることで、言葉の知識を増やしたり、接続語の使い方に慣れさせたりする。</p> <p>・他教科においても、インタビューなどの聞き取る機会を増やし、話の内容を端的に理解することができるようにする。</p> <p>・朝読書や隙間読書などを多く取り入れ、文章への抵抗感を少なくさせる。</p>		
	算数	<p>調 チャレンジタイムや繰り返し問題に取り組むことで、基礎活用問題どちらにおいても目標値を上回った。「折れ線グラフ読み取り」と「がい数」が他の領域に比べると低かった</p> <p>調 算数への関心、意欲が区の平均値を下回っている。</p> <p>学 文章を全体指導の中で要約することを続け、個人でも要約する力が身に付いた。そのことで、文章問題の立式は、四則演算の決定ができるようになった。</p>	<p>・折れ線グラフは、前学年1学期のテストではできていたが定着していない児童が見られる。</p> <p>・がい数や億、兆など大きな数を表す領域で位の間違いや、0が足りない等の誤りが見られ、自分で気付くことに課題がある。</p> <p>・文章問題の理解や作図などにおいて、自信をもてず、苦手意識をもつ児童がいる。</p>	<p>・他教科の活動でも、既習事項のグラフや表などを書かせる機会を多く取り入れ、グラフに関する基礎の定着を図る。</p> <p>・位取り表などを使って、視覚的にとらえさせることで、数量的感覚を身に付けさせ、がい数の基礎の定着を図る。</p> <p>・文章問題を解くために、簡単な絵や図を使って、文章題の意味を捉えさせ、立式できるようにする。</p> <p>・ノート指導の際に、定規やコンパスを使う機会を多く設け、作図をする力を高める。</p>		
6	国語	<p>調 漢字の読み書きは目標値を上回るが、作文を書くことなど自分の考えを伝えるという面で下回っている。</p> <p>調 音読の宿題を継続して出したり、読書の時間を確保したりしたことで、漢字を読む力が身に付いてきている。</p> <p>学 文章を書き慣れていない実態があるので、宿題を活用するなど文章を書く経験を積み重ねていく必要がある。</p>	<p>・新出漢字の練習と関連させて短文作りを継続して行い、主述関係の理解の定着を図ってきたが、その力が作文を書く力につながっていない。</p> <p>・目標値は上回っているが、漢字を読むことに比べて書くことに課題がある。意味を理解しながら漢字を覚えていない児童が多い。</p>	<p>・国語に限らず、他教科でも自分で学習のまとめを書いたり、自分の考えを文章化したりする時間を設ける。</p> <p>・作文を書いた時には、教師が間違いを指摘するだけでなく工夫した表現や自分の気持ちを書けている部分に線を引くなどして書いたことを価値付ける指導を行う。</p> <p>・漢字のミニテストを継続して行い、新出漢字に加えて既習の漢字を書く機会を設ける。</p>		
	算数	<p>調 全体的に目標値を上回っている。</p> <p>調 体積と面積の区別が混在しているため、公式を使いこなすことができない。</p> <p>学 計算は得意だが、文章題になると最後まで読まない傾向がある。そのため、単位を付けなかったり間違えたり、正しく立式できなかつたりすることが多い。</p>	<p>・学習単元が終わってしまうと、計算方法や公式を忘れてしまう児童が多い。</p> <p>・平面と立体の違いなど、図形の学習に苦手意識をもつ児童が多い。</p> <p>・文章題の中でも、かけ算かわり算かを判断する問題でつまづくことが多い。</p>	<p>・宿題に既習内容のプリントを取り入れ、復習の機会を作る。</p> <p>・既習の図形が出てきた時は必ずその図形の特徴を児童に言語化させ、それぞれの図形の特徴を繰り返し思い出させるようにする。</p> <p>・文章題では数直線を活用するよさを指導し、正しく立式する力を高めていく。</p>		

音楽	<p>【学】学習への意欲が高く、特に歌唱への興味・関心が高い。高学年は違うパートを歌い合わせる喜びを感じている。</p> <p>【学】リコーダーの運指について、フラットやシャープになると困難になる児童が各学級に数名いる。</p>	<p>・歌う意欲はあるが周りの声に耳を傾けず、叫ぶような声で歌う児童が数名いる。</p> <p>・左手のみの動作は難なくできるが、右手が加わったりフラットシャープが入ったりする、運指が難しくなる児童がいる。</p>	<p>・頭声発声でないと歌えない曲を取り入れながら、発声方法を変えていく。</p> <p>・常時活動にリコーダーのフラットやシャープのある曲を取り入れ練習を積み重ねる。特に苦手意識の高い児童には、個別に指導する時間を設け、習熟を図る。</p>		
図工	<p>【学】豊かな発想をする児童が多いが、なかなかイメージが浮かばない児童がいる。</p> <p>【学】イメージをもつことはできるが、どのように表したらよいか分からない児童がいる。</p>	<p>・様々な体験が作品づくりに生かしていない児童がいる。</p> <p>・はさみやのこぎりなどの切る道具や絵の具やクレヨン等の描画の道具を、自分の思い通りに使えない児童がいる。</p>	<p>・表現の幅を広げるために様々な作例をICTを活用して示し、いろいろな技法を習得できるようにする。</p> <p>・既習の道具の使い方を授業の初めに使い方の確認をしたり思い出したりするための時間を設け、繰り返し取り組むことで操作がスムーズにできるようにする。</p>		
特支					

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。